

- 1 主題名 かけがえのない命 3－（1）生命尊重
- 2 資料名 灯台守の日野長兵衛（ふるさとがはぐくむ どうとくいしかわ 小学校高学年）
- 3 ねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする態度を養う。

4 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

ねらいとする価値は、内容項目3－（1）生命尊重である。生命の大切さはどれだけ強調してもしすぎることはない。すべての道徳性は、生命が大切にされて、はじめて成り立つものだからである。

高学年の段階では、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。また、様々な人々との支え合いの中で一人一人の生命が育まれることがわかる。さらに、生命が祖先から自分、そして子孫へと受け継がれていくことをより深く理解するようになる。それらを通して、生命のかけがえのなさを自覚できるようにすることが重要である。人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さ、共に生きることの素晴らしさを考えることから自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。

（2）児童の実態について

本学級は明朗で、個性溢れる児童が多い。休み時間には、友達と一緒に汗を流して力いっぱい遊んだり、教室で仲良く話をしたりして笑顔で過ごしている。道徳の時間で、資料を通して生命尊重の授業を行った際には、命の大切さや、命がなくなった時の周りの家族の思いなどに触れてきた。

また、以前に「命は、とても大切だと思いますか。」というアンケートをとったところ、全員がとても大切だという意見をもっていた。理由として、「命はひとつしかない。」「命を失ったら、家族も失ってしまう。」など、かけがえのない命に対する思いをそれぞれがもっていることがわかった。

これまで、生命の大切さや、その命を囲む周囲の思いを考えたり、感じたりしてきた。本時で命のつながりについて深く考えることで、児童は更に、生命を尊重する思いがもてると考える。

（3）資料について

本資料は、石川県志賀町福浦灯台を題材に、福浦の人々の命を守るために灯台をつくった日野能登介の言動に注目して構成された資料である。能登介は、福浦の港で海運業を営む商人である。福浦の港は天然の良港であった。しかし、夜になると、港を見失ってしまうほどあたりは暗くなり、日本海の荒波によって難破してしまうことが度々あった。船を助けることができず、能登介は、自分の力の無さを感じ、歯がゆい思いをしていた。ある日、船が帰港しないということがまた起きた。先祖が福浦の人々に助けてもらい、「福浦の人々を守れ。」と、先祖代々伝えられてきた能登介は、必死で助ける方法を考え、一心不乱に松明の火を振りかざし、船の目印となり、その命を助けることができた。

人々のかけがえのない命を助けるために、必死で考え行動した能登介の思いや、その後270年もの間、福浦の人々の命を守るために、灯台を守り続けた日野家の思いを考えることで、生命がかけがえのないものであることや、自他の生命を尊重しようとする態度を養うことができる資料である。

5 指導にあたって

気付く段階では、「命」に関して身近に起きた経験や、悲しさを感じた経験が無いか尋ねる。家族との身近な出来事を思い出したり、新聞記事の内容を思い出したりしても良いこととし、声かけをする。「命」について想起することで本時のねらいとする価値項目について自然に考えられるようにしたい。

深める段階では、「命がかけがえのないこと」や「命を大切にしたい思いのつながり」について考えさせたい。帰港しない船を港で待っている時、幼い娘と母が海に向かって泣き叫ぶ様子、その時の能登介の気持ちを考え、命を救えない悲しさや無力感、命を救いたいという気持ちを感じ取らせる。能登介が地元の人々の命を守りたい一心で様々なことに取り組んでいる言動に注目し、そしてその思いをつなげてきた日野家の思いから、日野家は270年もの間何を守ってきたのかを考え、ねらいに迫っていく。

また、「命ってなんだろう。」と、深めの発問を投げかけ、資料から改めて考えた「命」について深く考えさせる。

見つめる段階では、自分たちの命に目を向けて考える。児童の幼いころの写真をもとに作成した映像を流し、命の誕生の喜びや家族に支えられている喜びにふれる。自分の命が家族や周りの人に大切にされてきたこと、友達も自分と同じように大切にされていることを感じとり、自身の命を大切に、生き抜いていこうという気持ちを考えさせる。

あたまめる段階では、本時での内容を振り返る。資料をもとに、命について考えたことを思い返すことで命のつながりを考え、目指す道徳的価値に迫っていきたい。

【研究とのかかわり】

・「価値について考えるための深めの発問」について

中心発問では、「日野家は270年もの間、何を守り続けてきたのかな。」と尋ね、かけがえのない命を守るために取り組んでいた人たちの思いや気持ちについて考えさせたい。対話が進んだ際に、「命ってなんだろう。」と深めの発問を投げかけ、「命」について本時の思考をもとに深く考えさせる。かけがえのない命について考え、お互いの命が支え合っていることに気付かせたい。

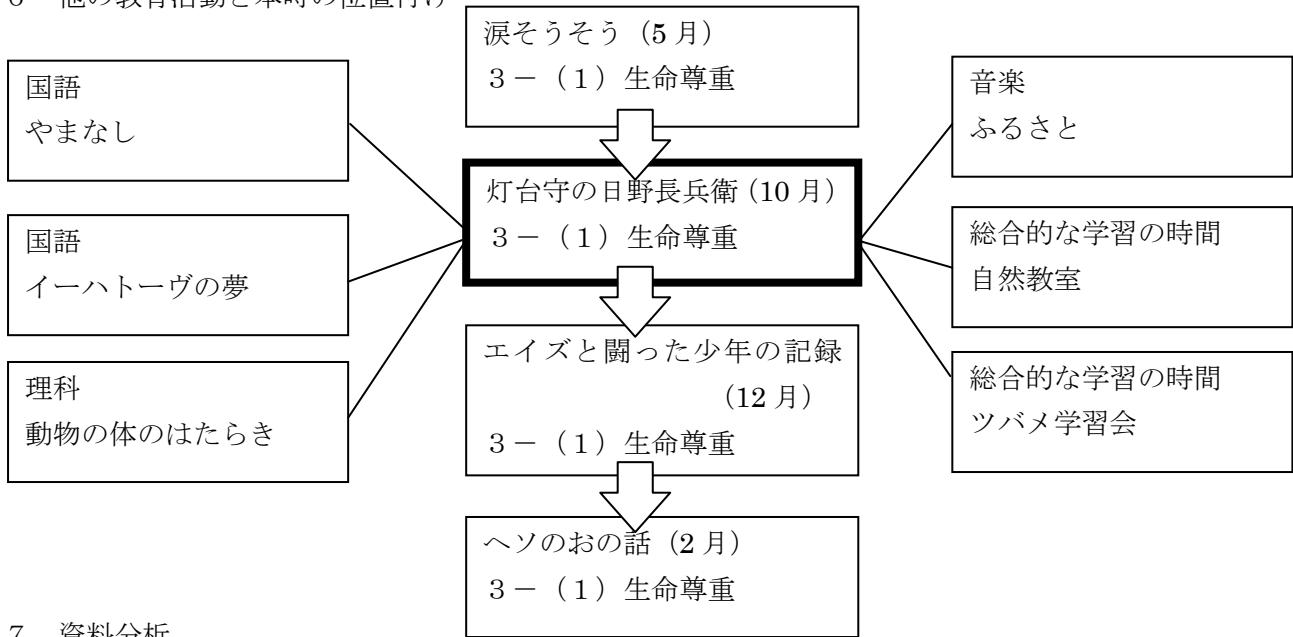
・「児童同士の対話の充実」について

本時ではペアでの対話を促す。友達と意見を交流させる中で、より考えを深めることができるようにしていきたい。

・「補充・深化・統合」について

本時は、「統合」の時間として位置付ける。今までに学んできた多様な道徳的体験の関連に気付かせ、それらを統合することで新たな感じ方や考え方につなげたい。

6 他の教育活動と本時の位置付け



7 資料分析

場面	登場人物の心の動き	◎中心発問 ○基本発問	○深めの発問
○能登介が船着き場でまだ帰ってこない船を待つところ	<ul style="list-style-type: none"> ・またか。 ・どうしたことか。 ・悔しい。 ・早く帰ってきてくれ。 	不安 悔しさ	
○能登介が幼い娘とその母にすがりつかれるところ	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとかしてあげたい。 ・何ができるだろう。 ・私はなんて無力なんだろう。 ・先祖のためにも力になりたいのに。 	↓ 悲しみ 無力感	○泣き叫ぶ親子を見て能登介は、どんなことを考えたのだろう。
○再び、帰ってこない船を能登介が船着き場で待つところ	<ul style="list-style-type: none"> ・今度こそ何とかしたい。 ・助ける方法はないだろうか。 ・同じ過ちを絶対に繰り返したくない。 	↓ 焦り	
○松明をもって走り出すところ	<ul style="list-style-type: none"> ・頼む。 ・気付いてくれ。 ・最後のチャンスだ。 	↓ 願い	
○船が能登介の松明に気付いた場面	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく嬉しい。 ・助けることができたぞ。 ・これからも松明を照らし続けなければ。 	↓ 安堵	◎日野家は 270 年もの間、何を守ってきたのかな。
○受け継がれる思い	<ul style="list-style-type: none"> ・先祖代々受け継いでいこう。 	↓ 生命尊重 誓い 決意	○命ってなんだろう。

8 本時の学習活動

(1) 準備 挿絵, ワークシート, タブレットPC, 「ふるさとがはぐくむ 道德いしかわ」映像資料

児童の生い立ちムービー

(2) 展開

過程	学習活動	<教師の働きかけ> ・予想される児童の考え 《中心発問》での反応の類型化▽□◇	◎評価 ・指導上の留意点
気付く5分	1 身近に感じられる「命」について考える。	<「命」に関して、身近で、こわいと思ったり、悲しいと思ったりしたことはあるかな。> ・自動車が突っ込んできて亡くなった人がいる事件が怖かった。 ・船の沈没の話とか、飛行機の事件が怖かった。 ・突然、命が失われることがあるんだな。	・新聞記事や家族などの身近な出来事に注目できるように、新聞記事の切り抜きを提示したり、教師の体験を話したりする。
深める25分	2 資料「灯台守の日野長兵衛」を読んで話し合う。	<泣き叫ぶ親子を見て能登介は、どんなことを考えたのだろう。> ・なんて無力なんだろう。 ・なんとかしてこの命を助けたい。 ・こんなに悲しんでいる家族がいるのに。 ・先祖の言い伝えを守らないと。だけど…。 ・この家族にとって大切な命をただただ眺めるしかできないなんて。 《日野家は270年もの間、何を守ってきたのかな。》 ▽船乗りの命を守ってきた。 □地域を守ってきた。 □昔からの先祖の言い伝えを守ってきた。 ◇家族みんなの大切な命を守ってきた。 ◇地域の宝である村人の命を守ってきた。 《命ってなんだろう。》 ・急になくなってしまふことがあるもの。 ・みんなが大切に守っていききたいもの。 ・次につなげるものだから守っていかないといけない。 ・命があるから生きることができて、生きているから家族や地域の支えや喜びになるもの。	・「ふるさとがはぐくむ 道德いしかわ映像資料～旧福浦灯台～」を見せ、灯台の話であることをおさえる。 ・母と娘の挿絵を提示し、泣き叫び、能登介にすがっている様子をイメージさせる。 ・ワークシートに記入する。 ・ペアで交流し、考えを深める。 ・児童の意見を分類整理しながら板書する。 ・児童の反応を見て、「日野家の人たちはやめようと思わなかったのかな。」と補助発問をする。 ◎生命はかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとしている。(ノート)
見つめる10分	3 自分たちの命に目を向けて考える。	<自分の命の誕生を思い返して、命について考えよう。> ・私が生まれた時も、家族はすごく喜んでくれたんだろうな。いまでも、大切に守ってくれているな。 ・おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんと命がつながっている。僕自身命を大切に毎日過ごさないと。	・児童の写真で作ったムービーを流し、自覚化をはかる。
あたためる5分	4 学習を振り返る。	<今日の授業を振り返ろう。> ・命は周りの支えになったり、急になくなって悲しみに変わったりする。だからこそ、守らないといけない。 ・僕の命も色々な人に支えられていると感じた。大事な命をなんとか助けようと精一杯頑張っていた人がいつの時代にもいたことが分かった。	・児童の振り返りをいくつか紹介する。

思考の深まりの順に▽□◇

(◇ 目指す児童の思い)

太字：深めの発問